

# 私達クラブ員を含めた若い世代だけでなく、大人にも新規就農者を増やしていくために私達クラブ員はどのような活動ができるか。

九州ブロック連盟 沖縄県立南部農林高等学校

生物資源科 3年 仲村 美咲

生物資源科 2年 當間 弓月

## 1 はじめに

九州学校農業クラブ連盟は、福岡県11校、長崎県5校、佐賀県4校、熊本県12校、大分県9校、宮崎県8校、鹿児島県11校、沖縄県6校、クラブ員数14,659名の全国でも大きいブロックです。「九州は一つ」の合い言葉のもとに、お互いに切磋琢磨しながら農業クラブ活動に取り組んでいます。

本年度の九州学校農業クラブ連盟事務局は沖縄県立南部農林高校が担当しています。本校がある豊見城市は、沖縄本島南部に位置する人口64,689人の人と緑が共存するまちです。本校は生徒総数509名で、食料生産科、生物資源科、食品加工科、環境創造科、生活デザイン科の5学科から構成されており、本年で創立71年目を迎える歴史ある高校になります。本校の功績として、本校出身の元プロボクサーでWBA世界スーパーライト級王者平仲信明選手が1984年に開催されたロサンゼルスオリンピックに出場し、本校に出場記念碑を設置しました。農業クラブ活動では、第55回全国大会平板測量競技において最優秀賞を受賞しています。また今年度は、平板測量競技において沖縄県大会最優秀賞、プロジェクト発表分野I類最優秀賞、他にも和菓子甲子園出場、全国産業教育フェアフラワーアレンジメント競技出場など校内の農業クラブ活動も活発になっています。



## 2 九州学校農業クラブ連盟リーダー研修会

九州学校農業クラブ連盟では、7月24(水)～26日(金)に2泊3日の日程で「第53回九州学校農業クラブ連盟リーダー研修会」を渡嘉敷島にある国立沖縄青少年交流の家にて実施しました。

初日は、アイスブレイクやチームビルディングを通してリラックスした状態で分科会などを行うことが出来ました。分科会では、クラブ員代表者会議テーマのうち第2分科会と第3分科会のテーマについて各県の取り組みや考え、解決策などを



話し合いました。

3日間の分科会の全体の流れは、1日目は、「ワールドカフェ」形式で意見交換を行いました。「ワールドカフェ」とは、カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルで自由な対話を行い、自分たちのテーブルで出た意見を他のテーブルのメンバーと共有することにより、参加した全員の意見や知識を集めることが出来る対話手法の1つです。2日目は、1日目の意見交換で出た内容のまとめを午前と午後で行ってもらいました。そして、3日目は分科会の発表と全体会での発表を行いました。初日のワールドカフェから始まった分科会は、3日間を通してとても有意義なものになりました。

2日目は、分科会の他に、お昼に野外炊飯、その後には海洋研修を行いました。シュノーケリングやカヌー体験を行い、渡嘉敷島の自然を肌で感じてもらえるプログラムとなりました。また、夜には「Night Enjoy」と題して、天体観測を行いました。天気にも恵まれて、とても綺麗な星空を眺めることが出来ました。

最終日の3日目には、分科会発表と全体会を行いました。話し合った内容の中から重要な点をピックアップし、まとめた模造紙を使っての発表は、質問も多く飛び交い個人個人の新しい気付きに繋がったと思います。この3日間内容の濃い充実したリーダー研修となりました。



### 3 分科会協議・全体会の報告

テーマ：「私たちクラブ員を含めた若い世代だけでなく、大人にも新規就農者を増やしていくために私達クラブ員はどのような活動ができるか。」

#### (1) 実態

- ア 農業に対する興味・関心がない
- イ 農業の素晴らしさが伝わっていない
- ウ 3Kなどの悪いイメージがある  
(キツイ、汚い、くさい)
- エ 土地・機械などの金銭的な面での問題
- オ 少子高齢化により後継ぎがない

#### (2) 問題点・実態から見えたもの

- ア 農業に対する良いイメージがない
- イ 農業に触れ合う機会がない
- ウ 小中学生に向けた体験はあるが、大人に向けた体験がない
- エ 大人に対しての農業の伝え方が分からない



### (3) 問題点解決の具体的な取り組み

#### 【メディアの活用】

- ①農業の楽しさだけでなく大変さや、県が推奨する就農者支援制度をポスターやチラシで知ってもらう
- ②地域の掲示板に学校で行っている農業体験内容などを掲示する
- ③SNS（インスタ等）を利用して幅広くPRする

#### 【地域との連携】

- ①栽培から成長までの過程や栽培方法が書かれたマニュアルを高校生が作成して、作成したものをJAの窓口に置いてもらう
- ②地域とふるさと納税のコラボを行い、学校の特産物をふるさと納税の対象とする

#### 【農業の魅力を伝える活動】

- ①動物のブラッシング体験
- ②ソーセージやベーコンなどの手作り体験
- ③ふれあい動物園
- ④芋ほり体験や田植えなどの農作業体験

## 4 協議内容のまとめと今後の課題

新規就農者を増やすためには、農業に興味、関心を示してもらう必要がある。また、農業を始めるにあたり、知識や技術、経済的不安を軽減する必要があると考える。

この課題に対し、私たちクラブ員ができる取り組みとして以下の3つが挙げられた。

- ①農業の楽しさ、大変さ、県が推奨する就農者支援制度をポスターやSNS等メディアを活用して幅広くPRする。
- ②栽培方法を書いたマニュアルを作成し、地域の窓口に置いてもらう。
- ③農業祭の時に、幅広い年齢が気軽に参加できる農作業体験を実施する。

## 5 テーマについて本校での取り組み

テーマにしたがって本校での取り組みについて紹介します。

本校バイオテクノロジー部では、地域農家と連携して、焼き芋用品種ちゅらまるのバイオ苗に関する研究活動を行っています。

本研究で優良なバイオ苗を地域農家に普及することが出来、安定供給が可能になりました。また、焼き芋の糖度を上げることに成功し、焼き芋用品種としての大いなる可能性を見出すことが出来ました。この取り組みは、テレビや新聞等の地元メディアを通して、地域へ情報発信を行うことができました。

本研究により、農業の魅力を多くの方々に知ってもらい、その結果新規就農者の増加に繋げるためにも地域農家との連携、情報発信を続けていきます。



## 6 終わりに

テーマの中にある、「若い世代だけでなく、大人にも新規就農者を増やしていくために私達クラブ員はどのような活動ができるか。」と考えたとき、新規就農者に農業の楽しさを伝える事が必要であると考えました。

そのために、農業クラブ員が自分なりの農業の楽しさを持ち、それを非農業者に伝えるなど、その楽しさを感じてもらえるような活動を続けていくことが大切ではないかと考えます。また、地域が抱えている課題に目を向け、情報発信していくことが課題解決の一つの方法に繋がっていくと確信しています。

今後、リーダー研修会を通して、私達クラブ員が出来る取り組みについて出た意見を参考に本校から出来ることを考え、取り組んでいきたいです。